

2023年
上
聖徒伝 247

信仰者に 求められる 心の方向性

エレミヤ書 20章

エレミヤの迫害・独白

アウトライン

0. イントロダクション

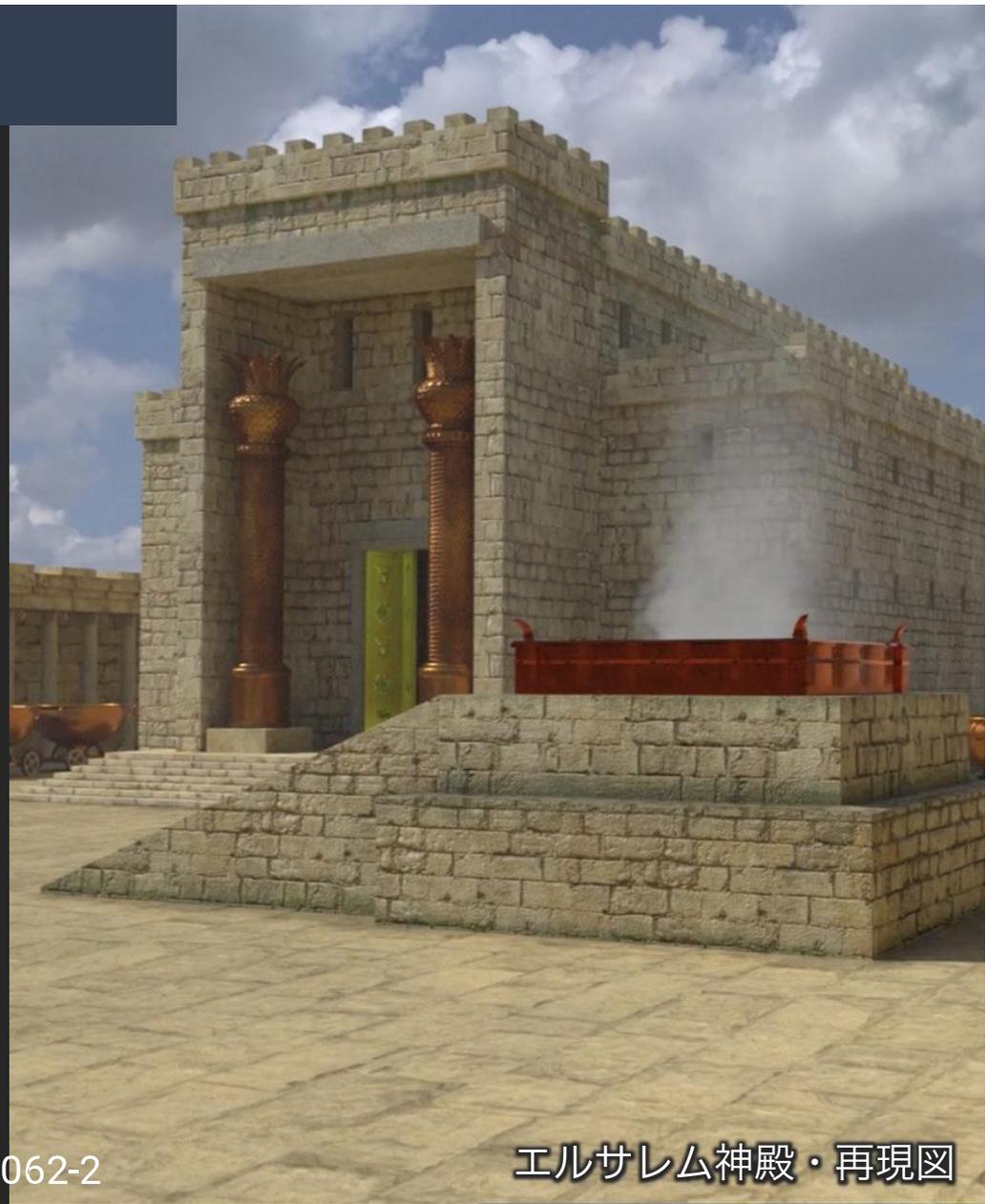
I. エレミヤの迫害 20:1～6

II. エレミヤの独白 20:7～18

III. まとめと適用

主イエスに

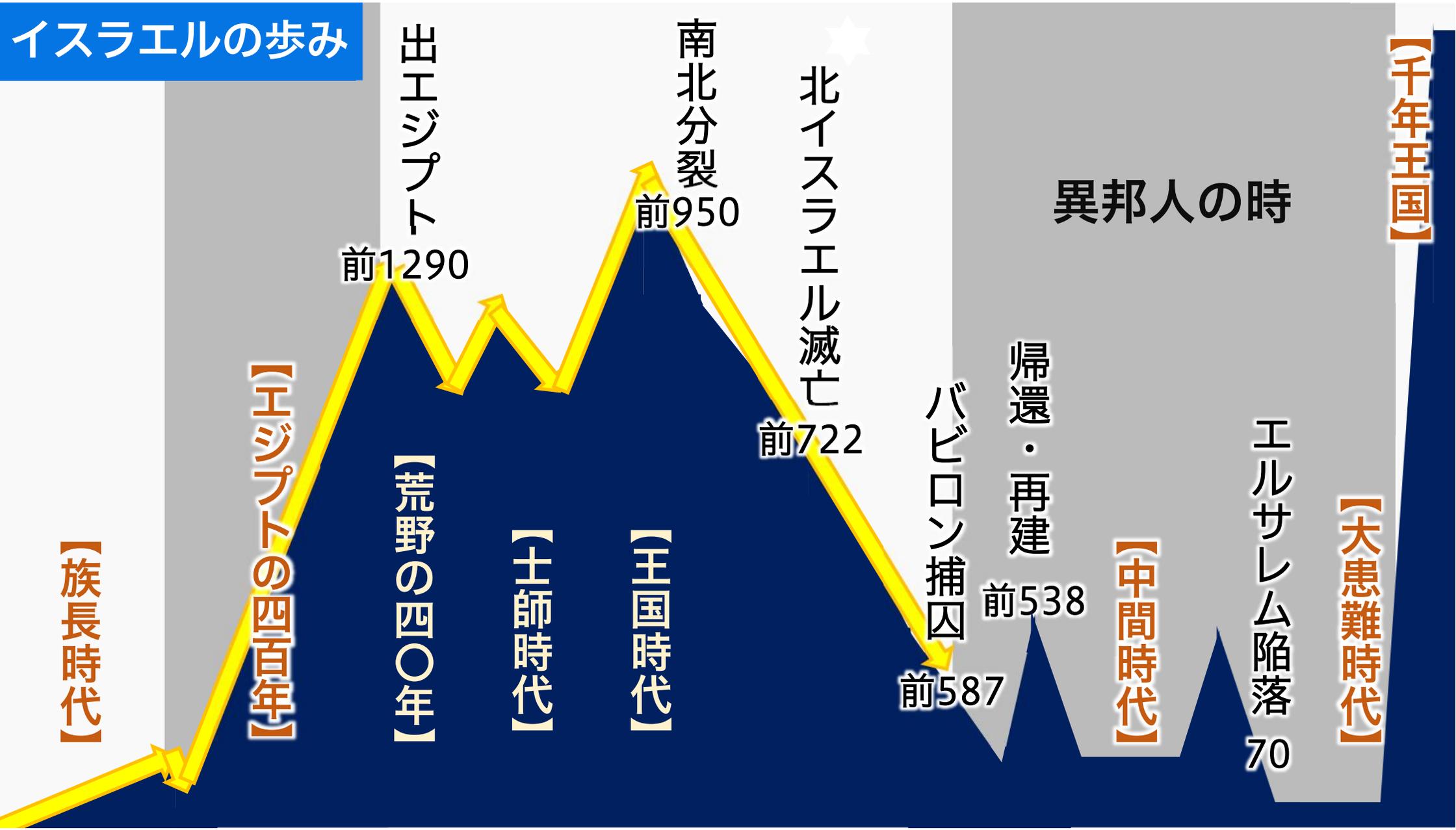
心を向け続けよう





0. イントロダクション

イスラエルの歩み



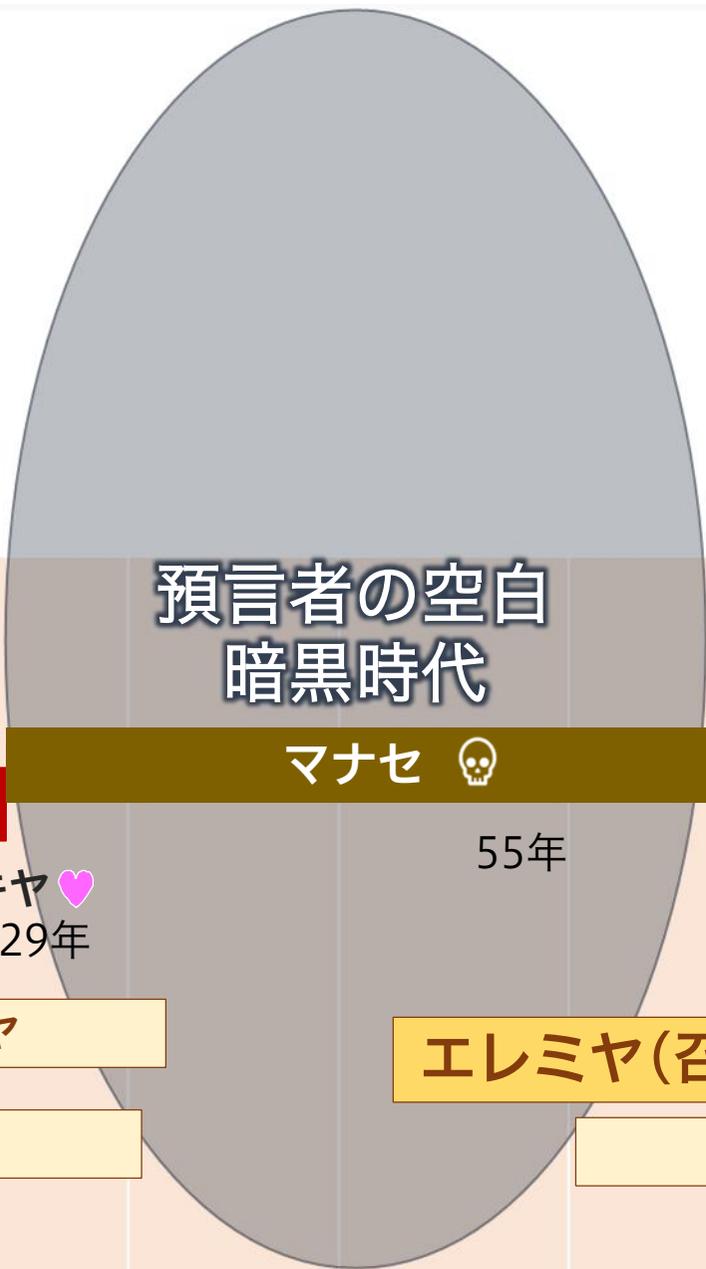
エレミヤ書の構成

章	時代	おもな内容
1～12	ヨシヤ王の時代	エレミヤの召命 エルサレムの罪状と裁定
13～20	エホヤキム王の時代	捕囚の預言
21～38	混沌の時代① エホヤキム、エホヤ キン、ゼデキヤ (※記述年代は前後)	帰還の希望(23~29章) エルサレムの滅亡 慰め
39～44	捕囚後	
45～51	混沌の時代② エホヤキム、エホヤ キン、ゼデキヤ (※記述年代は前後)	エルサレムの滅亡 諸国への預言
52	まとめ	エレミヤの生涯

北王国
イスラエル

アッシリア捕囚
BC722年

南王国
ユダ



預言者の空白
暗黒時代

ヒゼキヤ ♡ 29年

イザヤ

ミカ

マナセ ☠ 55年

エレミヤ(召命前)

アモン ☠ 2年

エホアハズ 3ヶ月

ヨシヤ ♡

ハバクク

ゼパニヤ

エホヤキム ☠ 11年

エホヤキン ☠ 3ヶ月

ゼデキヤ ☠ 11年

エレミヤ 45年

バビロニアの侵略

バビロン捕囚

前19章 ベン・ヒノムでの裁きの御告げ

- エホヤキム王の時代、切迫するバビロニアの脅威。
- エレミヤは、エルサレムのベン・ヒノムの谷、偶像への人身供養すら行われた呪われた地で、エルサレムに下される厳しい裁きを告げた。
- 陶器が粉々に碎かれるような、徹底した破滅が来る!!
エレミヤは、神殿で、再度、人々に告げた。



Ⅰ. エレミヤの迫害

エレミヤ書20章1～6節

エルサレム神殿

迫害 祭司パシュフル エレミヤ20:1

さて、【主】の宮のつかさ*、また監督者である、イメル*の子、祭司パシュフル*は、エレミヤがこれらのことばを預言するのを聞いた。

*“最高指導者(新共)”

*“彼は言った” …本来は神の御告げ

*“自由” …何からの自由？



迫害 拘束 エレミヤ20:2

パシュフルは、預言者エレミヤを打ち、彼を【主】の宮にある、上のベニヤミンの門*にある足かせにつないだ。

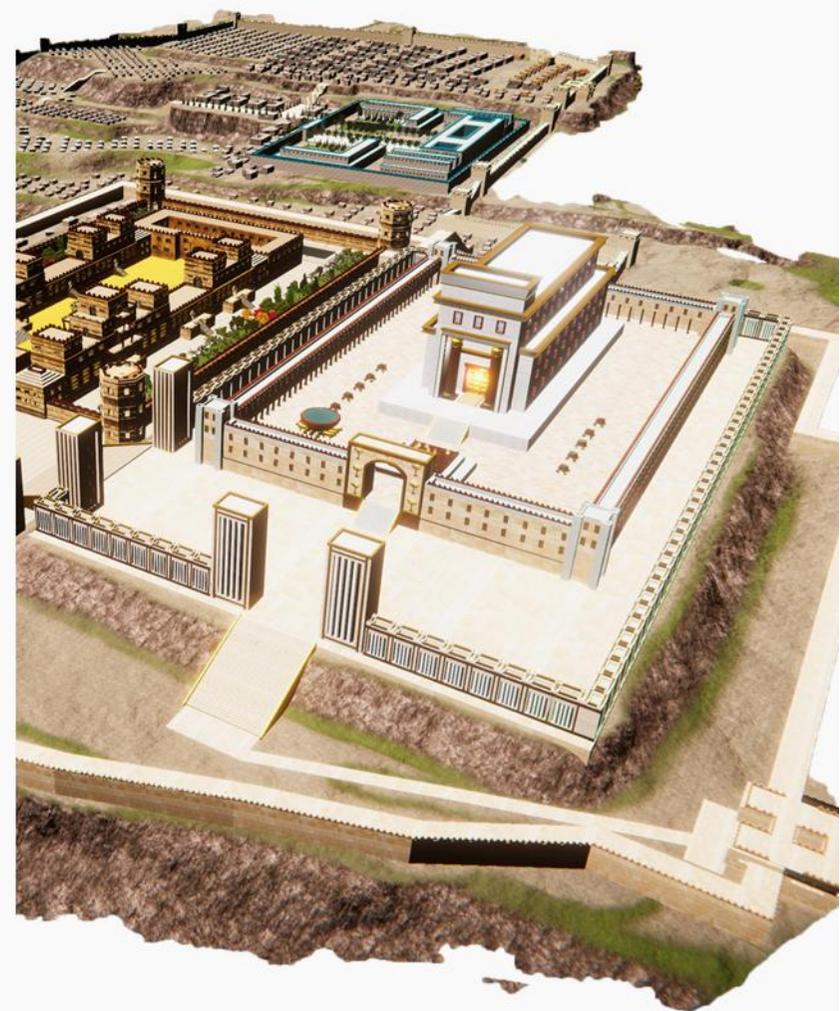
* 神殿の北側(ベニヤミンの領地側?!)

➡ 神殿の北に隣接する門(統治機関)

■ ろくな裁判もなく、拘留したのだろう。

➡ 何の律法にも反していないエレミヤ

➡ 人々が行き交う門の拘留は見せしめ



宣告

恐怖が取り囲む エレミヤ20:3

翌日になって、パシュフルがエレミヤを足かせから解いたとき、エレミヤは彼に言った。「【主】はあなたの名をパシュフルではなく、『恐怖*が取り囲んでいる』と呼ばれる。」

*“マオゴール” …韻を踏んでる?!

■パシュフル(自由)ではなく、
恐怖に満ちた裁きが待ち構えている。



宣告

バビロニアの暴虐 エレミヤ20:4

まことに【主】はこう言われる。見よ。わたしはあなたを、あなた自身とあなたの愛するすべての者にとって**恐怖**とする。彼らは、あなたが見ている前で、敵の剣に倒れる。また、わたしはユダの人すべてをバビロンの王の手に渡す。彼は彼らをバビロンへ引いて行き、剣で打ち殺す。

■パシュフルの家族、親族は、目の前で惨殺。

エルサレムのおもな人々は、バビロンへ捕囚。

多くの者が処刑される。

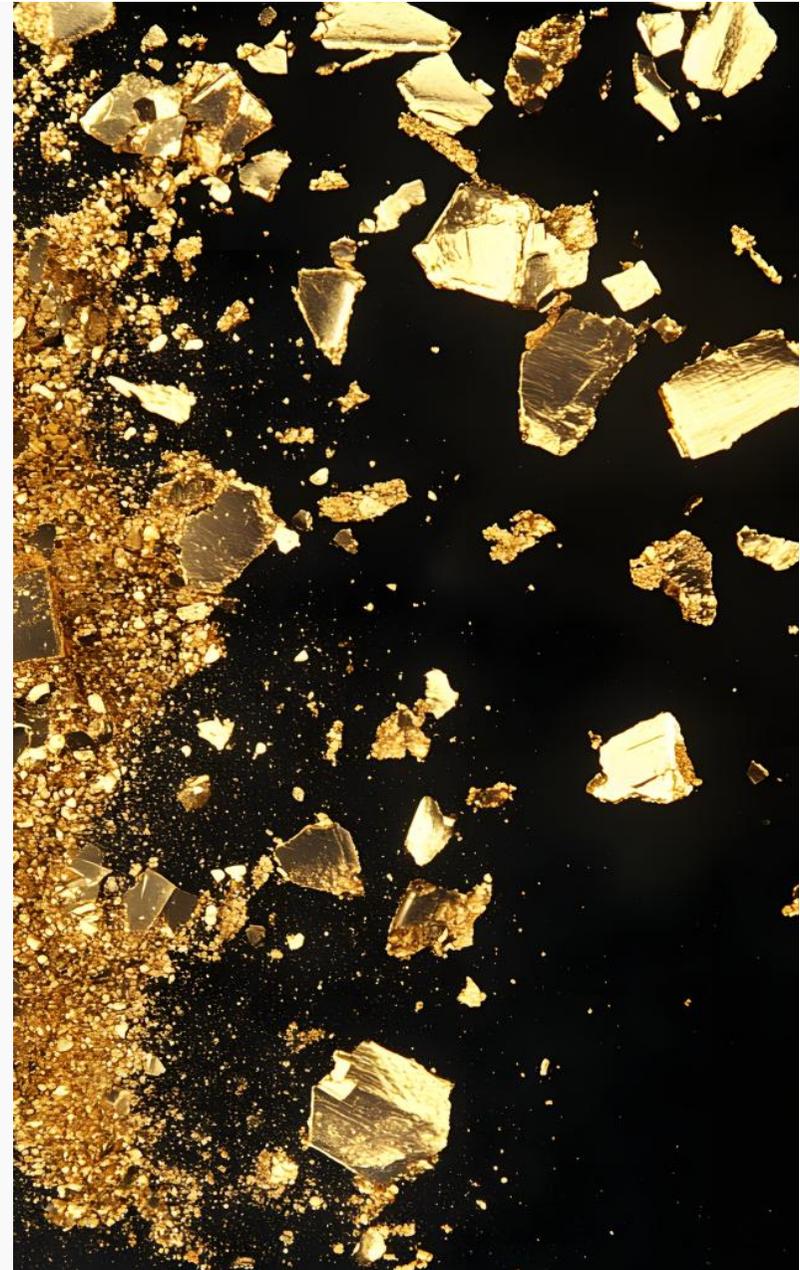


宣告

大略奪 エレミヤ20:5

また、わたしはこの都のすべての富と、すべての労苦の実と、すべての宝*を渡し、ユダの王たちの財宝を敵の手に渡す。彼らはそれをかすめ奪い、略奪してバビロンへ運ぶ。

*長年蓄えられ、保管されてきた宝と富のすべてがことごとく略奪される。



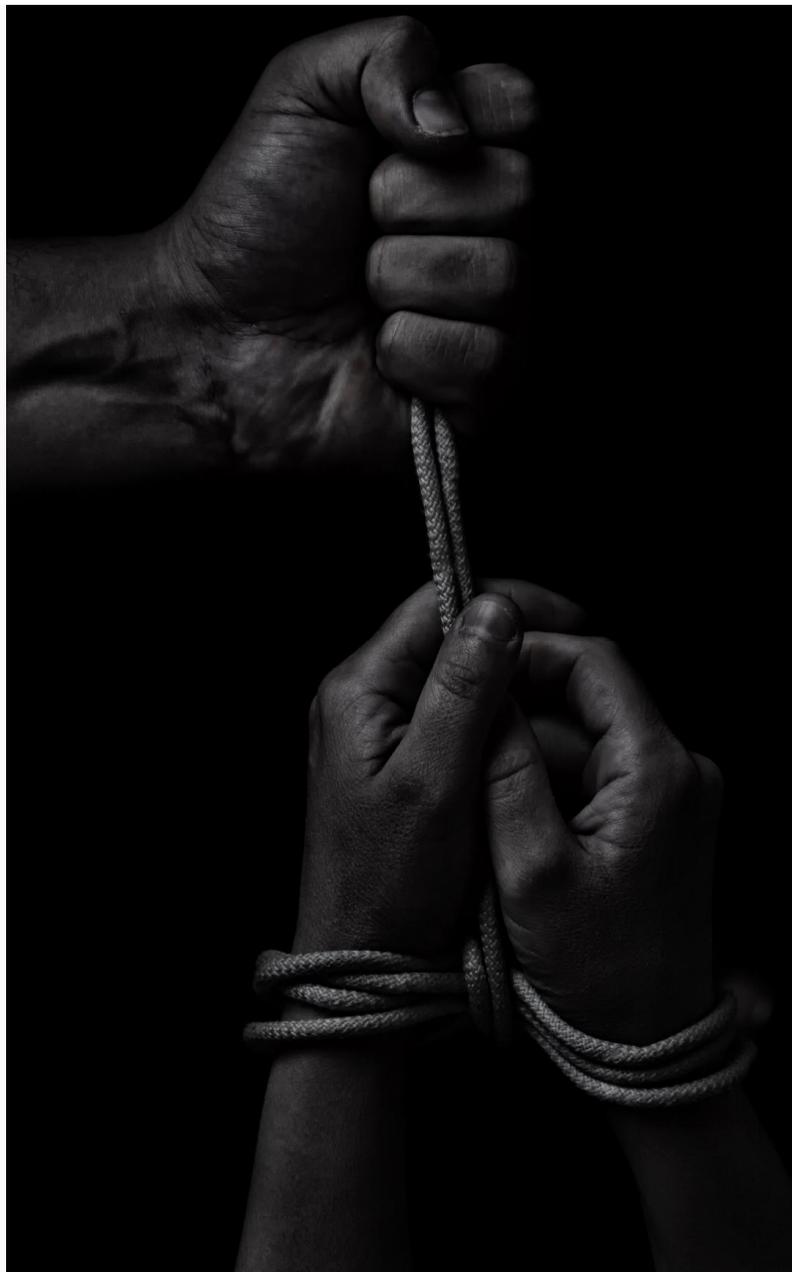
宣告 寄留の死 エレミヤ20:6

パシュフルよ。あなたとあなたの家に住むすべての者は、捕らわれの身となってバビロンに行き、そこで死んで、そこに葬られる。あなたも、あなたが偽って預言を語り聞かせた、あなたの愛するすべての者たち*も」

*パシュフルの偽預言を信じた支援者たち

■ 神を偽る偽預言は、告げた者はもちろん、信じた者にも破滅的な最期をもたらす。

偽預言は、滅びをもたらす





II. エレミヤの独白

エレミヤ書20章7～18節

独白 主による惑わし エレミヤ20:7

「【主】よ。あなたが私を惑わした*ので、私はあなたに惑わされました*。あなたは私をつかみ、思いのままにされました。私は一日中笑いものとなり、皆が私を嘲ります。*」

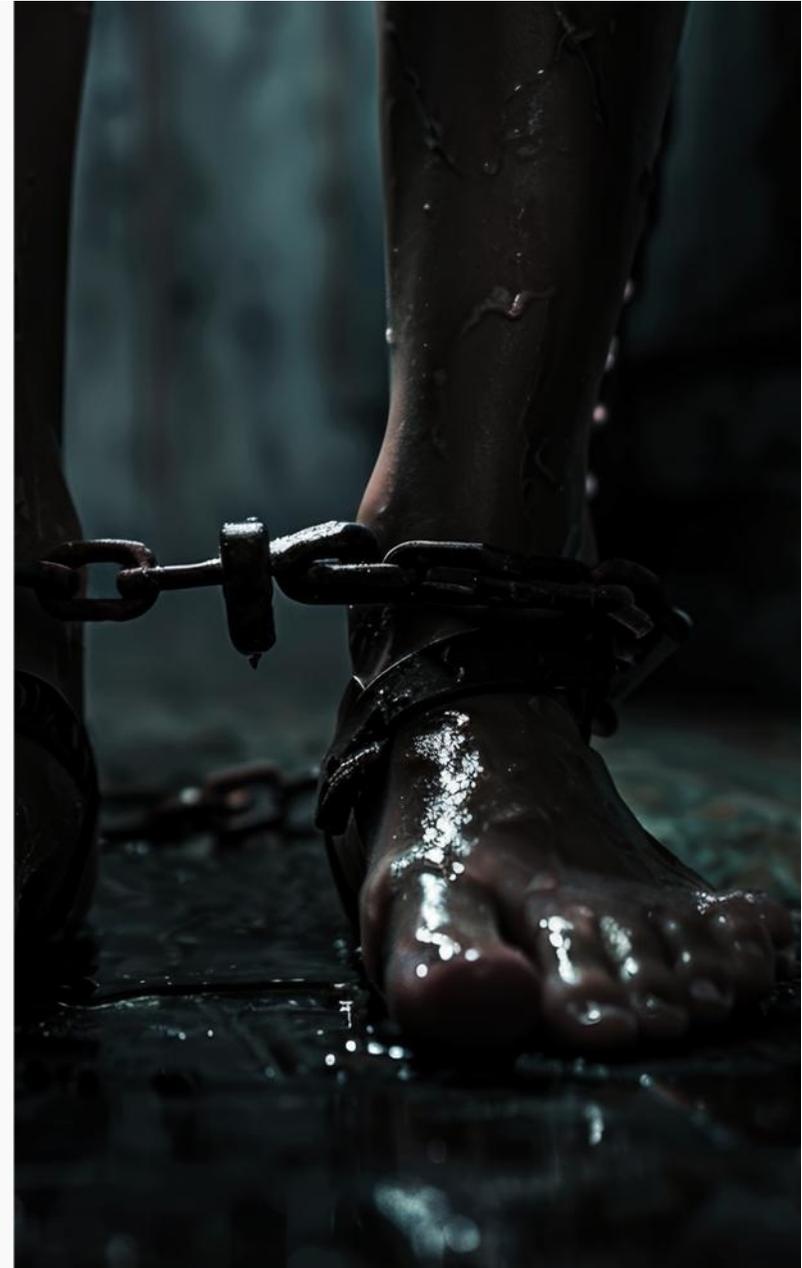
*“欺いた(口語)”

■ 神が信仰者を欺く？

→ 主だけを仰ぎ見るエレミヤの信仰

* 嘲笑するためにエレミヤを一日拘留した。

すべての主権は神にある!!



独白 従順のゆえに エレミヤ20:8

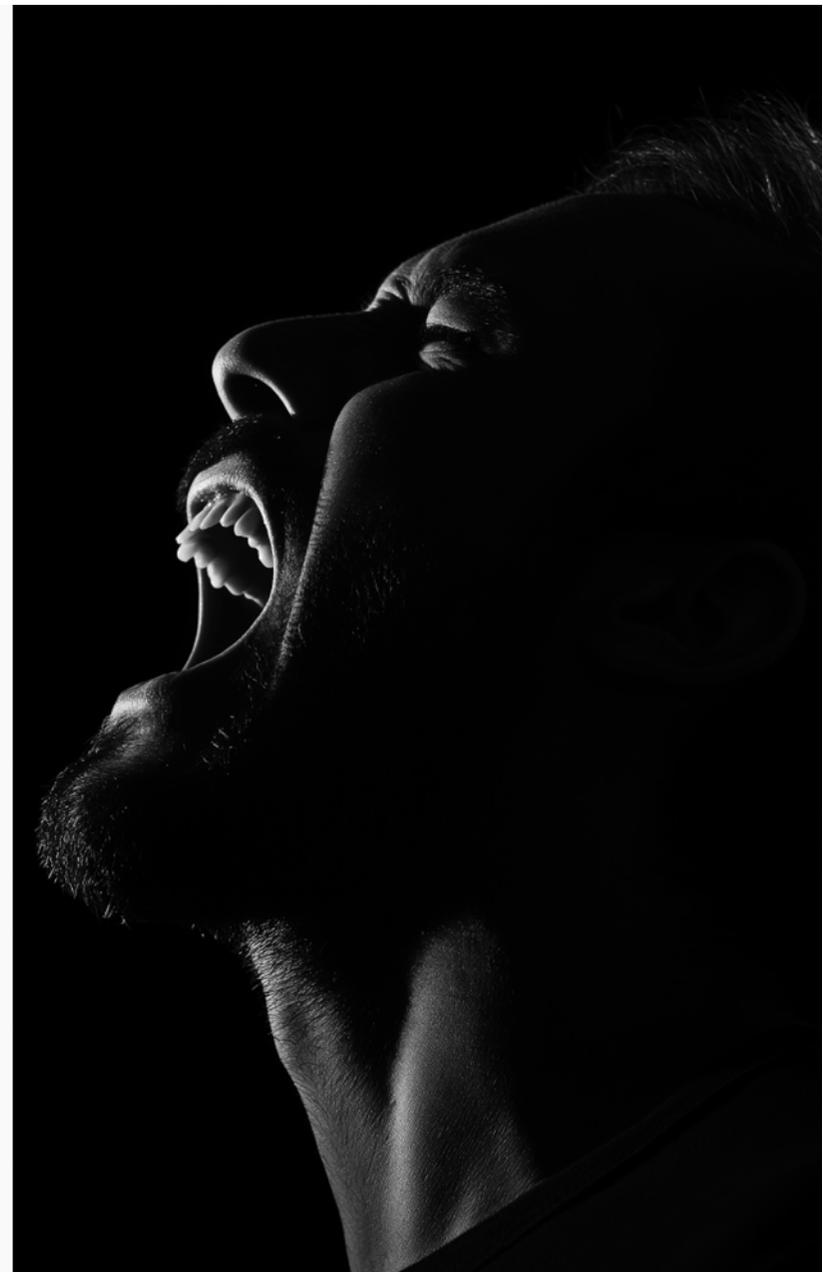
私は、語るたびに大声を出して『**暴虐だ。暴行だ***』と叫ばなければなりません。

【主】のことばが、一日中、私への嘲りのもととなり、笑いぐさとなるのです。

*エレミヤが語り続けたのは裁きの預言

■主の裁きを正しく告げるがゆえに、
人々に嘲笑され、迫害を受けたエレミヤ。

主に従順なほど増す預言者の苦難



独白 語らずにはいられない エレ20:9

私が、『主のことばは宣べ伝えない。もう御名によっては語らない』と思っても、主のことばは私の心のうちで、骨の中に閉じ込められて、燃えさかる火のようになり、私は内にしまっておくのに耐えられません。もうできません。

■ 語らずにはいられないのが、真理の御言葉

「イエスは答えられた。『わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。』(ルカ 19:40)」



独白 人々のささやき エレミヤ20:10

私が、多くの人のささやきを聞いたからです。
『「恐怖が取り囲んでいる*」と告げよ。われわれも彼に告げたいのだ』と。私の親しい者もみな*、私がつまずくのを待ちかまえています。『たぶん彼は惑わされるから、われわれは彼に勝って、復讐できるだろう*』と。

*御告げを拒絶した人々の憎悪がエレミヤに。

*親しかった人々もエレミヤの破滅を

*『エレミヤは惑わされて偽りを告げている。

いずれ過ちが明らかになる』

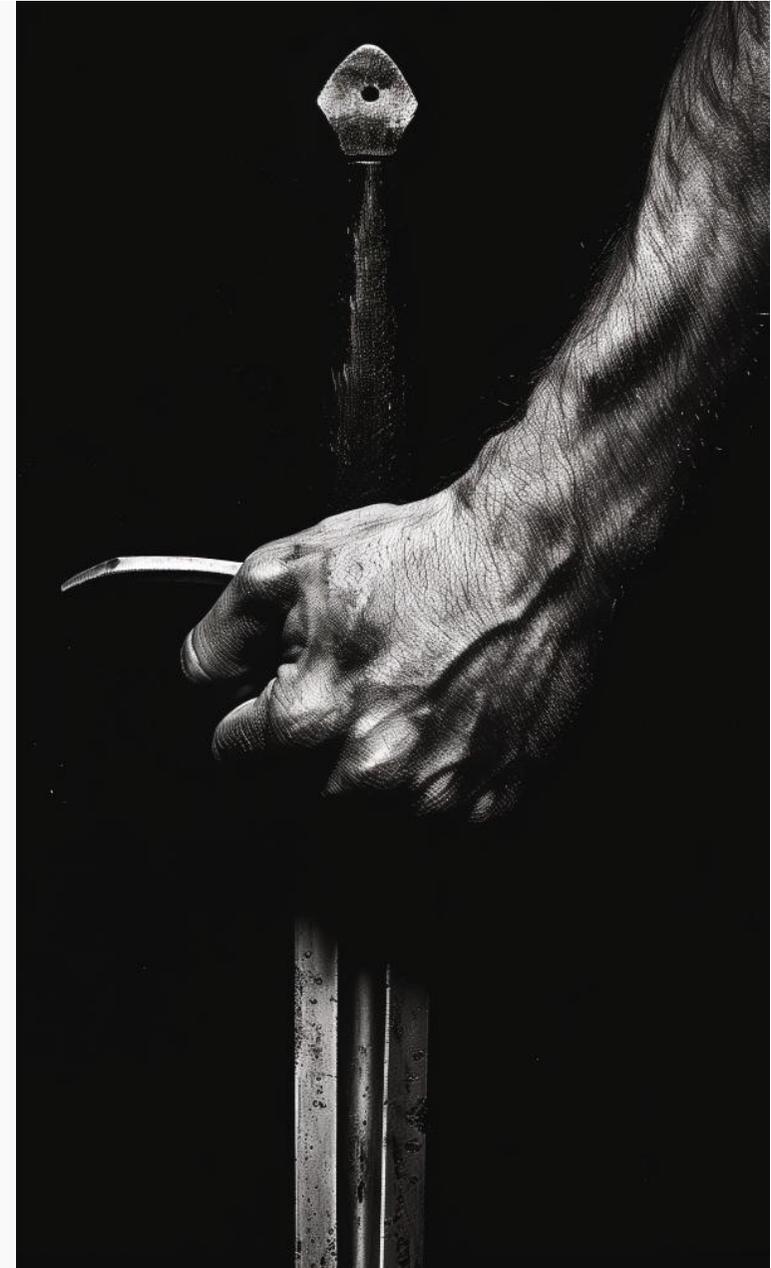


独白 主は勇士 エレミヤ20:11

しかし、【主】は私とともにいて、荒々しい勇士のようです。ですから、私を迫害する者たちはつまずき、勝つことができません。彼らは成功しないので、大いに恥をかき、忘れられることのない永久の恥となります。

- 赤裸々に主に苦しみを訴えつつ、
主への信頼を堅く保っているエレミヤ

主への堅い信仰があってこそその独白



独白

復讐するは… エレミヤ20:12

正しい者を試し、思いと心を見る万軍の
【主】よ。あなたが彼らに復讐するのを私
に見させてください。私の訴えをあなたに
打ち明けたのですから。」

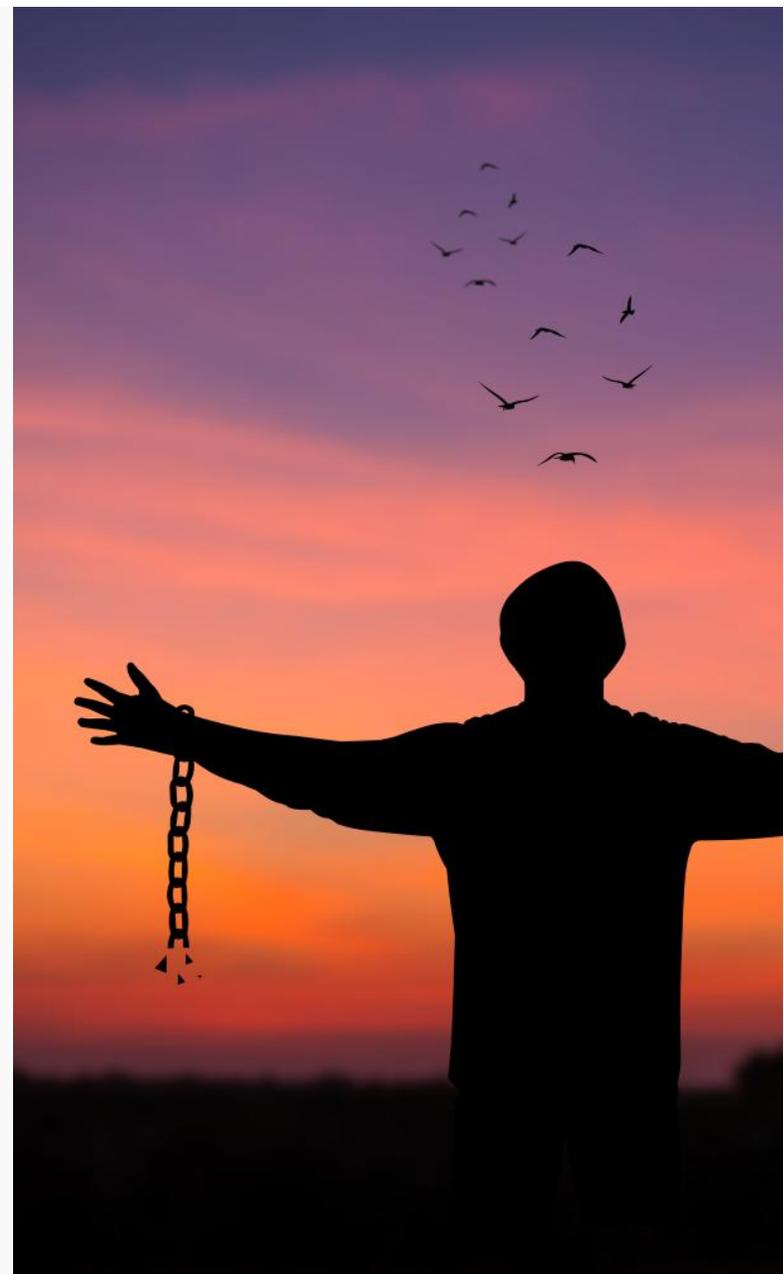
■復讐を**主**の御手に委ねるのが、信仰者
「愛する者たち、自分で復讐してはいけません。
神の怒りにゆだねなさい。こう書かれて
いるからです。『復讐は**わたし**のもの。
わたしが報復する。』主はそう言われます。
ロマ 12:19」



独白 貧しい者 エレミヤ20:13

【主】に向かって歌い、【主】をほめたたえよ。主が貧しい者*のいのちを、悪を行う者どもの手から救い出されたからだ。

- *最も貧しい者は、主のために迫害される者
- 主の復讐と、悪の手からの救いを確信して主を讃えるエレミヤ。



貧しい者、迫害される者は幸い

■ マタイ福音書5:3,10~12

「心の貧しい者は幸いです。

天の御国はその人たちのものだからです。

義のために迫害されている者は幸いです。

天の御国はその人たちのものだからです。

わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。

喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。

嘆き

のろい エレミヤ20:14~15

「私の生まれた日は、のろわれよ*。母が私を産んだその日は、祝福されるな。

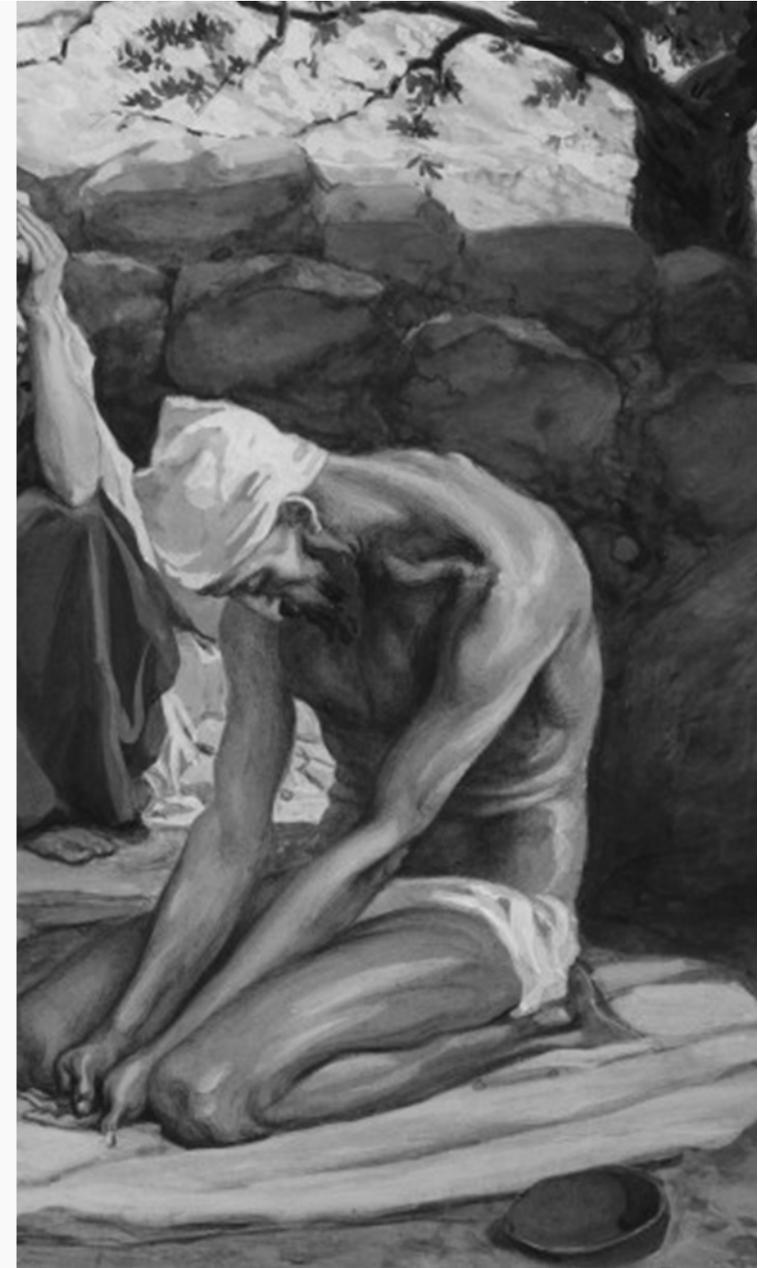
のろわれよ。私の父に、『男の子が生まれた』と知らせて、大いに喜ばせた人は。

*義人ヨブと同じ …信仰ゆえの試練の極み

➡重要なのは到着点 …ヨブ同様だろう

■すべてを失ったヨブの嘆き ヨブ記3:3

「私が生まれた日は滅び失せよ。『男の子が胎に宿った』と告げられたその夜も。」



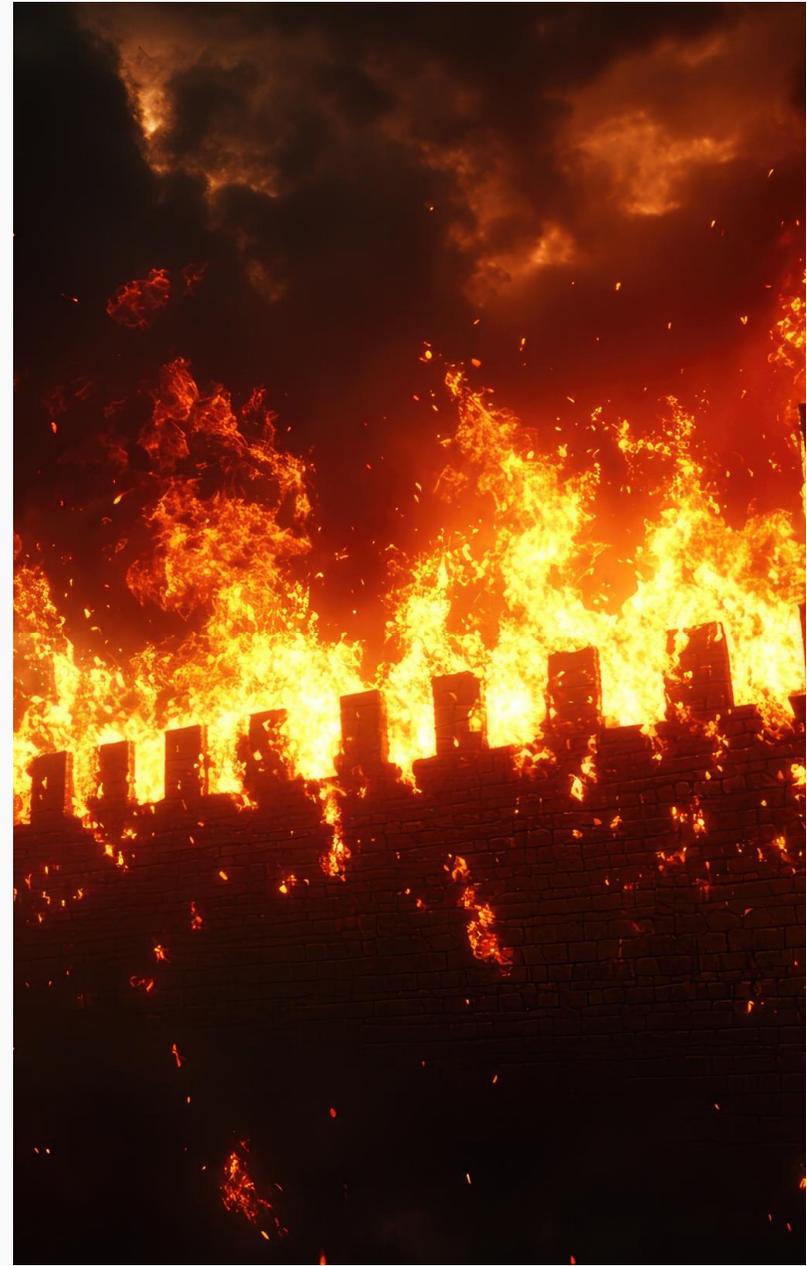
嘆き

嘆きの底で エレミヤ20:16

その人は、【主】があわれみもなく打ち倒す町々のようになれ。朝には彼に悲鳴を聞かせ、真昼には、ときのを聞かせよ。

■嘆きの根底にあるのは、同胞への愛

「私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となってもよいとさえ思っています。ロマ 9:3」



嘆き

悲嘆 エレミヤ20:17~18

彼は、私が胎内にいるときに私を殺さず、母を私の墓とせず、その胎を、永久に身ごもったままにしなかったからだ。

なぜ、私は労苦と悲しみにあうために胎を出たのか。私の一生は恥のうちに終わるのか」

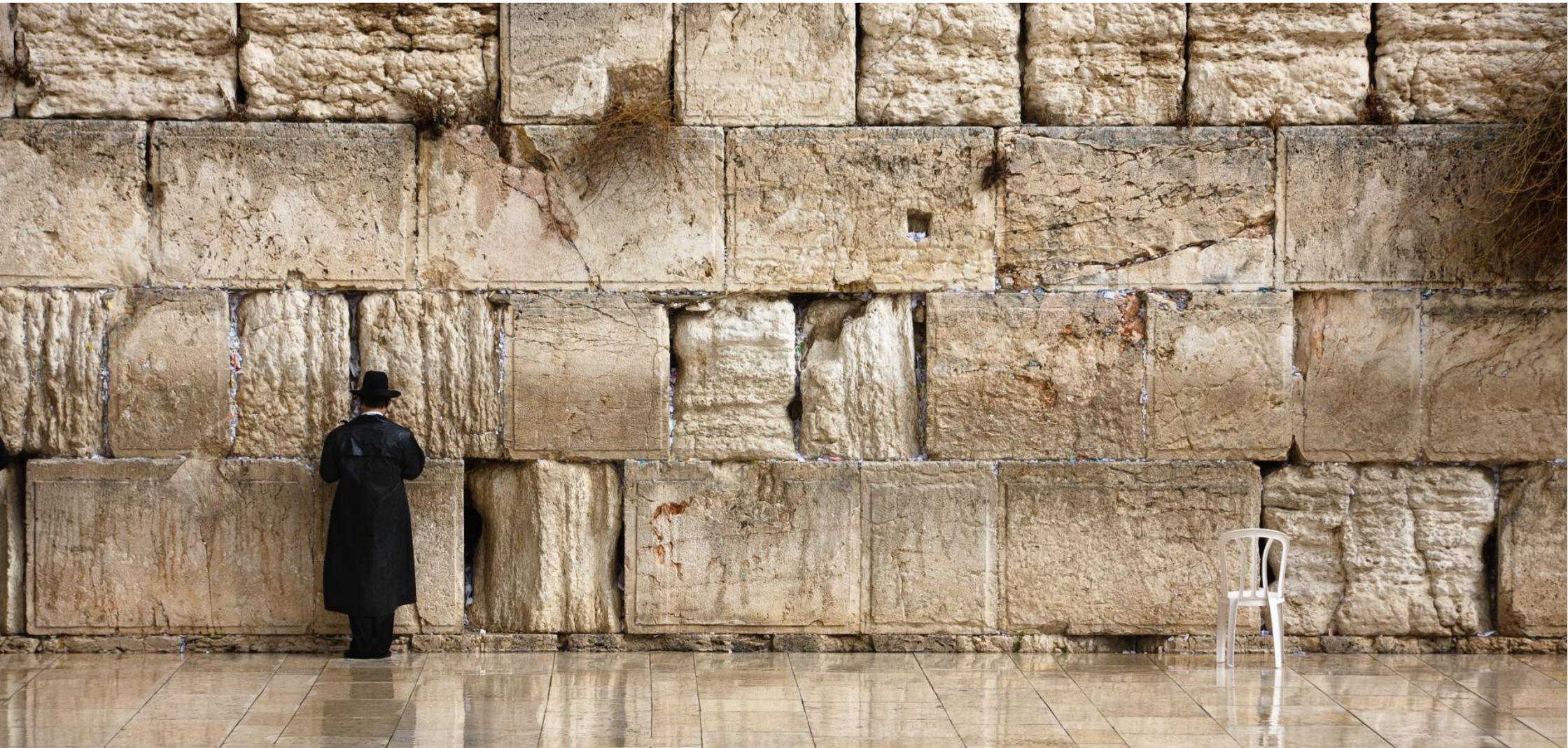
- 愛する同胞から憎悪され、迫害されても主の裁きを告げ続けた。
- 生まれた日を呪うほどのエレミヤの苦悩が重なるのは、義人ヨブだけ。



エレミヤに重なる ヨブの嘆き

■ヨブ3:16~19

なぜ私は、ひそかに墮ろされた死産の子、
光を見なかった嬰兒のようにならなかったのか。
かしこでは、悪しき者は荒れ狂うのをやめ、
かしこでは、力の萎えた者は憩い、
捕らわれ人たちもみな、ともに安らかで、
激しく 追い立てる者の声も聞こえない。
かしこでは、下の者も上の者も同じで、
奴隷も主人から解き放たれている。



III. まとめと適用

主イエスに心を向け続けよう

偽預言とその末路

■ エレミヤ14:14~15

【主】は私に言われた。

「あの預言者たちは、わたしの名によって偽りを預言している。わたしは彼らを遣わしたこともなく、彼らに命じたこともなく、語ったこともない。彼らは、偽りの幻と、空しい占いと、自分の心の幻想を、あなたがたに預言しているのだ。

それゆえ、わたしの名によって預言はするが、わたしが遣わしたのではない預言者たち、『**剣や飢饉がこの地に起こらない**』と言っているこの預言者たちについて、【主】はこう言う。

『**剣と飢饉によって、その預言者たちは滅び失せる。**』

偽預言の本質

■ 主の名を騙る、「偽りの幻と、空しい占い、自分の心の幻想」

→ 自分のお心を、主の御心とすりかえること

■ 神の怒りと裁き、罪と死から人の目をそらす。

→ 義なる神の裁きを拒絶

■ 拒絶の結果、滅びにいたる。

→ 拒絶した裁きが、自分自身に返ってくる

激しく揺れ動く エレミヤの心

■ エレミヤは、ベン・ヒノムの谷で、迫る神の裁きを告げ、拘留。解放後もなお、パシエフルに裁きを告げた。

■ 一方、エレミヤは、主に向かって、苦しみを吐露する。嘲笑されても、御言葉は心の内で燃え、語らずにはいられない。親しい者すら、エレミヤの破滅を願っている。

■ 主に復讐を委ね、勝利と解放を確信して主を讃える一方で、生まれた日を呪い、悲嘆にふける。

ただ一つ、揺れ動かなかったエレミヤの姿勢

■ 裁きを宣告し、拘留されて絶望し、苦しみを吐露し、
主の勝利を確信して讃え、生まれた日を祝う。

■ 激しいアップダウンの中で、ただ一つ揺れ動かなかったのは？

→ **主を見上げ、主に向き続けていたこと**

■ 義人ヨブが、絶望し、悲嘆し、友人たちから責められながら、
それでも、ただ主を見上げ、主に訴え続けたように。

エレミヤとヨブに学ぶ、真実の信仰

■自ら生まれた日を呪った信仰者が、預言者エレミヤと義人ヨブ。イスラエルの破滅を告げたエレミヤの苦難は、ヨブに匹敵する。

■エレミヤもヨブも、悲嘆に暮れ、揺れ動く心を隠しもしない。ただ一心に主を見上げ、すべての思いを主に向け続けた。

■信仰者が問われるのは、心の状態ではなく、心の方向性。どうあろうとも、**主に心を向け続ける。それが真実の信仰だ。**

自分自身の心の方向性を確認しよう

■ 御心に聞き従っているのか。自分の心に捕らわれているのか。

➔ 主の御言葉に聞き従うのが、主の求める愛であり信仰。

➔ 悔い改めとは、的外れな罪の状態から、主に向き直ること。

■ 主イエスが求められるのは、主の道を歩み続けること。

➔ 苦難を伴う試練の中で試されるのは、私の心の方向性だ。

心の状態は上下する。いつでも平安でいられはしない。

例) 嵐の中で、正しい方向に向き続けられるか。

日々、御言葉に聞き従い、適用し、主を仰ぎ見続けていこう

★ 主イエスに心に向け続けよう ★

■ エレミヤ、ヨブよりはるか以上の苦難を主イエスは受けられた。私たちの受けるべき神の怒りを飲み干され、完全に断絶された。

■ 「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」想像しがたい苦しみの中で、主イエスの視線は微動だにしない。

■ 心の状態は常に揺れ動く。大切なのは、私たちの心の方向性。十字架の死、葬り、復活を信じ、主の再臨を待ち望もう。

永遠の約束を、御霊によって心に刻み、主の道を歩み続けよう

てん とう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください

わたし かみ みこ しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

うち す みたま わたし ただ みちび
内に住まわれる御霊が、私たちを正しく導いてくださいます。

こころ ゆ うご なか しゅ こころ む つづ
心が揺れ動く中でも、主に心に向け続けることができますように。

ひび みことば した みかお した もと
日々、御言葉に親しみ、御顔を慕い求めます。

しゅ ふたた こ ひ しゅ き したが あい みち あゆ
主の再び来られる日まで、主に聞き従う愛の道を歩ませてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」